



アメリカ研修を終えて

柔道整復学科 アドバンスコース 3年 高山貴稔



平成16年9月5日から9月17日までの約2週間、私たち柔道整復学科アドバンスコースの2年生はアメリカ研修に行きました。

研修の目的は「アメリカにおけるスポーツ医学及びその周辺事項を学ぶこと。さらにはアメリカの国家資格であるアスレティックトレーナーの活動を通じて、柔道整復師とスポーツの関わり方について考えること」です。場所は、オレゴン州のアシュランド市にある南オレゴン大学というところ。南オレゴン大学はアシュランドの豊かな自然に囲まれた街の中にあり、大学内では整った設備で学生たちがのびのびと学習・クラブ活動に取り組んでいるといった、研修には最適で非常に恵まれた環境でした。研修内容は主にスポーツ



外傷についての講義とスポーツ現場での検査や処置の方法についての実習でした。午前は講義、午後は実習と様々な施設の見学をおこないました。

指導して下さいしたのは、大学の体育局所属のチーフトレーナーである

マイク先生でした。マイク先生はご自分の臨床経験を交えながら、とても熱心に、丁寧に教えて下さいました。私たちもその熱意に応えようと真剣に講義・実習に取り組みました。実際にスポーツ外傷を処置している所を見学させて頂く事もでき、大変勉強になりました。

見学では、病院・PTクリニック等アメリカの医療現場や消防署から演劇鑑賞、アメリカンフットボールのゲーム観戦まで、日本とは違ったアメリカの文化に触れることができました。夕食後は主に自由時間で、今回の研修で私たちをお世話してくださった日本人留学生の方々とソフトボールの試合などレクリエーションが企画されていました。大学の敷地は日本では考えられ



ないほど広く、サッカー・野球・陸上競技のグラウンドが使用でき、体育館ではバレー・バスケットボール等の屋内スポーツも自由にできたので、日本での生活よりもスポーツが身近にあるように思いました。自由時間に現地の学生も交えて数人でバレーボールをしたり、バス

ケットをしたりと良い息抜きになりました。こういった時間を過ごせたことで、アメリカらしさを身近に感じる事ができたと思います。

今回の研修では、日本にいる時と違った目線で医療やスポーツを見ることができ、アメリカでスポーツと医療がどのように関係しているのかを学ぶことができました。この経験から柔道整復師がスポーツに対してどのように接していくのか、またどのような取り組みができるのかを広い視野を持って考え、今後の自分自身の医療活動に大いに役立てていきたいと思っています。

最後にこの研修を快く承諾してくださったマイク先生、南オレゴン大学の方々、現地でお世話していただいた留学生の方々、そして企画して下さいました先生方に感謝致します。

中国研修を終えて

鍼灸学科 アドバンスコース 3年 奥村祐加

「私は脈診が大好きです。」

これが、今回の中国研修でもっとも私の心に残った言葉です。2週間の研修中、午前は病院内で病棟や外来の見学、午後は現地の先生方から授業をしていただく、という毎日を過ごしました。先ほどの言葉は、その中の先生のお一人が脈診の授業の際に、屈託のない子供のような笑顔を浮かべながらおっしゃられた言葉です。どんな賛美の言葉を聞くよりも、どんな科学的根拠を見せられるよりも脈診が魅力的に感じられました。

また、鍼灸外来の見学の折、患者さんから直接お話を聞かせていただく機会に多く恵まれました。言葉もうまく通じない日本人の学生が、あれこれと矢継ぎ早に質問してくるのに対し、皆さん非常に好意的で、いやそうな顔ひとつありませんでした。ご自分是从からだの具合が悪くてこうして治療を受けに来られているのに、なぜこんなにも親切に対応してくださるのか不思議に思っていると、通訳をしてくれていた中国人の先生が説明をしてくださりました。広州という地域では昔から伝統医学が人々の間で信頼されており、学生の質問に快く答えてくださるのは、自分たちの子供や孫の健康を将来その学生たちが担うようになるのだと考えて

いるからだそうです。

そういう風に絶対的に信頼されているものを自分たちが今学んでいる



るということに誇りと自信を持つとともに、そういう気持ちに対していい加減なことをして応えてはいけなくて改めて実感しました。さらには真剣に勉強に取り組むことは大切だけれど、自分が今学んでいることを「大

好きだ」と笑顔で言える余裕とやわらかさも持っていたいと思いました。

今回、植物の種を使った耳鍼や、蜂の針を用いた治療などバラエティに富んだ数々の治療法を見る機会に恵まりましたが、そういう「技」よりも人々の間に浸透している「鍼灸」に対する暖かいまなざしを感じられたことが何よりの収穫でした。